

日々の暮らしに

## 香川芳子

女子栄養大学学長



生きていることを喜び  
その体を他者のために使う  
喜びを感じてください

継続は力です。『栄養と料理』は

創刊75周年を迎えました。小さなことでも挑戦を続けていると人間の可能性は無限に広がり、楽しくなります。女学校時代の友人に声楽家江川きぬさんがいます。彼女は障害を持つ人との音楽活動を20年も続けています。私は年に1回開かれる演奏会に出かけ、一人一人の晴れ舞台を写真に収め、贈り物にしています。目が見えなくても足が不自由でも脳性マヒであっても、それぞれの才能を開花させ、自信に満ちた姿に触れることができます。そして私自身が励まされ、

勇気ももらっています。

生活環境や収入に対する要求水準を変えずに不満をつのらせ、ただ待つては何事も始まりません。経済不況や新型インフルエンザの流行、自然災害などさまざまな不安がありますが、いま生きていること自体が素晴らしい、その恵みにも気がつきません。柔軟な発想で広く社会を見渡せば、荒れた森林の間伐や介護の担い手、農業の後継者など、人の手を必要としているところはたくさんあります。他者を支えることに喜びを感じる広い心を持つてほしいのです。